

## 同窓会あれこれ

嚶鳴同窓会長 鈴木よし子

早いもので、平成から令和に年号が変わりもうまもなく 4 か月。順調に今年度の活動が進んでおります。ご報告すべきことをたくさん抱えながら、このページに書かずにおりましたことをお詫び申し上げます。

まず、昨年度、山形西高は創立 120 周年を迎え、記念行事も無事終了いたしました。同窓会は主として記念誌の刊行をお引き受けし、資金の提供と編集に力を注ぎました。また、記念式典の企画運営にも多くの役員の方のお力添えをいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。作家柚月裕子先生のご講演そして生徒たちとの対談は、大変感銘深いものでした。ネット社会の今、山形に住みながら文壇の第一線で活躍されている先生のご業績は、生徒たちに将来の進路を考える上で力強いエールとなったことと思います。

年度初めの評議員会や、歓送迎会などをこなしておりましたところ、6月4日、悲しい訃報が入りました。第一高等女学校卒の先輩で世界的に評価された免疫学者、石坂照子先生が亡くなりました。石坂（旧姓松浦）先生は、大正15年のお生まれ、昭和10年代後半に高女で学ばれました。学業はもちろんトップの成績でしたが、弓道の選手として全国大会に出場される文武両道ぶり、さらに先日同学年の方にお話しを伺ったら、「照子さんは歌がうまくてね。」という話まで

飛び出し、まさにマルチタレントの持ち主だったようです。戦時色の強まる窮屈な時代ではありながら楽しい女学校生活だったことが伺われますが、卒業直前の昭和19年2月、第一高女の校舎は火災で全焼してしまいます。その3週間後、混乱の中行われた卒業式で、照子先生は卒業生総代として、悲しみから立ち上がり復興を目指そうと仲間を鼓舞し、卒業後もここで学んだことを心の糧に精進するとの力強い答辞を遺しています。東京女子医専に進学して医学の道に進まれ、石坂公成先生とご結婚、ご夫妻で渡米してアレルギー分野の研究を共同で進められました。お二人で成し遂げた「免疫グロブリンE」の発見等の業績により数々の賞を受けられた世界最高レベルの医学者でありました。公私ともに最良のパートナーであったご夫妻は晩年帰国され、難病を発症されていた照子先生の望郷の思いを叶えるため、御夫君共々山形に戻られていました。見上げるような学者としてのご業績のみならず、一人の人間として、女性として豊かな人生を全うされた偉大な方が、この嚶鳴の先輩であることを心から誇らしく思い、ご葬儀で弔辞を奉呈させていただきました。皆様と共に、心からご冥福をお祈りしたいと思います。